

報新日新報

カンチヤス島事件を
繞る諸情勢

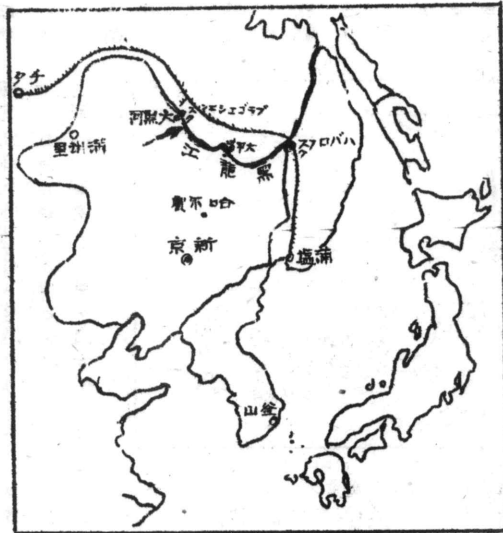
滿洲國境を穿つる、大河黑龍江、
宛々二十七八百四十キロ、アル
グン、ナルカ河を合流して滿洲國
境を過ぎ、ソ連を越えてニコライエフ
スク市にてオホツク海に注ぐ此の
大河、過去半世紀に於ける露支紛
争の温床地帯、流域の荒が露國に
戻りて根柢を結ぶ露支國民相剋の
氣概、今や暫つての帝政ロシアは
ソビエト聯邦の名に於てその氣
概の鮮を、廣漠たる野に和平を詠
歌して、攻々と瀾々滿洲の民に向
て来るの形

乾金子の不法射撃、ポヤールコ
フ北水道開闢、ソ聯艦隊の滿洲國
領水侵犯、センヌハ島嶼占據等々
とソ聯側不法行為のファイルは連
綿する、依然昨日、ソ聯艦隊の不
法射撃に應酬し、滿洲國の砲艦ニ
突、ソ聯艦隊を撃沈、黒龍江の濠
に船を沈めし、事件は急轉回
舞台はモスクワに於ける、重光大
使、リトビノス、ストモニアコフ
會談の場合に移り、其の非特時
を背負ふ近衛首相、廣田外相、杉
山陸相、米内海相の大寫した、而
して今日、日ソ交渉進行中の空
幕が世界觀察の眼前に現はれてゐ
る

この歴史的な劇的モメントを構
成する素材要因は固く少くも多
くの奇蹟を持つてゐると云ふ事は
事件今後の経過を展望する上
に大いに助けとなる、その意味は
於て当地新聞からの報導を拾つて
見れば、

事件の黒幕、黒龍江沿岸の大都
市大黒河の下流百キロ内外の地帯
にはセンヌハ及びボルシヨイ島を
中心とする二つの島嶼群あり、此
等の島は河水の増減によつ
てその面積の大小を左右さ
れる一處の砂島に過ぎず、
殊にボルシヨイ島は夏季と
秋は水の中を没する
程度のものであると云は
れる

而して沿岸に對峙する滿
洲の勢力に對しては、日滿
軍主力十五方は北滿鐵道の
土部、特許地帯には四十八
時間以内は到達し得る地帯
迄、去る一日北上、ソ聯艦
隊は沿岸重要都市ブラゴウ
エニエンスクの對外ヘイホ
及び下流ハロフスク方面のニ
於て黒龍江を横断せんとする
非ずやと推測する、動靜はあり
、ソ聯軍は極東軍統帥官グ
ブルハル元帥指揮の下に約十三
師團兵員廿五万、一九三六年頃
作の新鋭航空機七百五十台、タン
ク七百五十台を有して、ブラゴウエ



シエンスク及びハロフスクを中
心に動員、歐洲ロシアよりの援助
をかり、事なくと一年間互支へ
得るだけの独自の能力を有して待
期の姿勢にありと云はれる、
而して軍と獨立せる守備軍
としての組織の下にあり、本國參
謀本部への依存度が少く、軍とし
ての臨機應變的行動の自由を保有
せるを以て、兩軍陣線正に火花を
散らしんとするの氣が漲つてゐ
ると云はれるが、赤軍の中央指導

カは反スターリン陰謀発覚のため
に相つてソ聯軍部首脳者達が
刑に科せられたに相當程度の弱体化を
したと見られてゐる、而して極東
赤軍内の反スターリン派は自己の
政権樹立のため、日ソ同盟破綻
及び併呑政策の露険は、日ソ同盟
破綻の端緒せん事を望んで居

り、今度の事件の如きはその爲に
反スターリン分子が日滿に對して
挑発的行動に出たのだとさへ一部
より見られて居る情態は、
今後黒龍江を繞つて日滿ソ三國
間如何に事態が進展して行くの
歐洲情勢の變遷に收斂する世界
は絶大なる関心の裡に其の前途を
見守つてゐる

益々挑発的なるソ聯の態度
紛争現地を併呑飛翔

(新京二日) 某新聞記者報
よれば一日午後三時頃ソ聯
軍用機三台アムダエ方面より
リカンチヤス島上空に飛来
約廿分は日滿軍の警備
状況を偵察の後、アムダエ方
面を飛翔し去り、このソ
聯側の益々挑発的態度は現
地部隊は極度に緊張してゐる

ソ聯國境部隊に
暴動動弁

(大黒河二日) ソ聯政府の
内訌は極東方面にと不安の氣を漂
つてゐる、終に大平滿對岸ソ聯
領の國境部隊に暴動動弁、附近部
隊一隊に放火、住民多数殺戮され
る模様である

カンチヤス島事件に對する
財界の反應

カンチヤス島事件に對して、
一、聯合の辭、二、議長推薦
三、會務報告、四、會計報告
五、質問、六、會則一部改正の件
(現役員廿名五十四名に派員
一役員提案) 七、會員提案
八、附會の辭、九、役員選舉開
票及び茶菓の費あり

定期總會開催

開催来る七月九日(金曜日)午後
二時より市七回定期總會を本
會事務所に於て左記日程によ
り開催可致し、同方障御聯合せ
の上御出席相成度及御通知ト
昭和十二年七月三日

沖繩海外協會支店

市内モント街一六四六
會員各社
日定

(東京二日) カンチヤス島事件に對し
一、聯合の辭、二、議長推薦
三、會務報告、四、會計報告
五、質問、六、會則一部改正の件
(現役員廿名五十四名に派員
一役員提案) 七、會員提案
八、附會の辭、九、役員選舉開
票及び茶菓の費あり

重光ストモニアコフ會見

カンチヤス島事件に關し、一日午後二時よ
り三時迄、重光大使とストモニアコフ外務
人民委員部長の會談が行はれ、日
相方針の責任を相手方にありと見
持し、譲らず結局一旦物別れとなり

怪雲東の天の地

黒龍江の流域に砲声轟く

不法射撃のソ聯定讞

我が方の應酬に成くと次没

(近日滿洲省発表) 六月廿日午後三時廿分、龍江黒河下流約八十哩、ソ連軍艦隊はソ聯砲台の砲撃を受け、三隻の砲撃艇は沈没し、一隻は坐落せしめ、一隻は逃走せしめられた。

(廿日午後九時廿分、外務省発表) 廿日午後三時、ソ聯砲台三隻が、ヤシ(散弾)を、南側侵入事件の真相は、南東軍艦隊の砲撃による。先づソ聯砲台のソ連軍艦隊及びソ連軍艦隊(ソ連)砲台は、龍江の東岸に砲撃し、砲撃艇三隻が沈没し、一隻は坐落せしめられた。

事端の追察々益懸事

この上、不祥事件の発生を懸けるた、めい、例に於て、運の兵力を撤収し、平定を拡大せしめ、新五期時としてゐる。

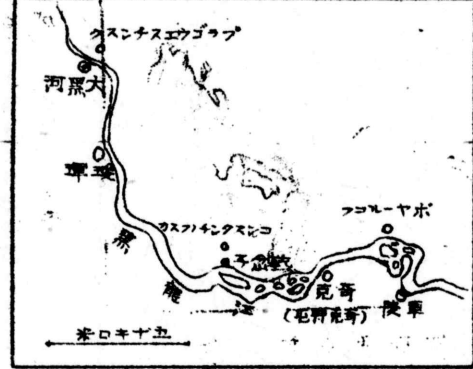
(ナナハル一日) カンナヤス島事件に關する其後の確報によれば、廿日午後三時、ソ聯砲台三隻が、カンナヤス島南側北約二百米附近に、接近し、不法射撃を加へた。この射撃に、砲台は、砲撃艇三隻を沈没せしめ、一隻は坐落せしめ、一隻は逃走せしめられた。

事件は何故起つたか

此の事件の発端は、五つの点に在り、廿日午前七時、滿洲國軍監視隊が、東部回境砲台(カンナヤス)に、

カンナヤス事件に対する 帝國の方針を決定

(東京一日) 滿洲國境カンナヤス島事件に關する、一日の近衛首相官邸外相杉山陸相米内海相の閣議は、先づ杉山陸相より最近の滿洲國境紛争の経過を、今承り、カンナヤス島事件に關する、現地の報告を、詳細に説明し、更に、田外相より、



日本側の抗議

以上の紛争に關する、對ソ交渉に關して、外務省は、廿日、大體、如く、對ソ、居る。

ソ聯軍艦隊の龍江上流の、カンナヤス島に、砲撃艇三隻が、沈没し、一隻は坐落せしめられた。この砲撃は、不法射撃によるもので、ソ聯軍艦隊の砲撃艇三隻が、沈没し、一隻は坐落せしめられた。

龍江の航行を許す事は下流沿岸の

の合意を中心に交渉経過を詳細に報告し、之に、我が方の方針として、この結果、ソ聯軍艦隊の砲撃艇三隻が沈没し、一隻は坐落せしめられた。この砲撃は、不法射撃によるもので、ソ聯軍艦隊の砲撃艇三隻が沈没し、一隻は坐落せしめられた。

龍江の航行を許す事は、下流沿岸の、ソ聯軍艦隊の砲撃艇三隻が沈没し、一隻は坐落せしめられた。この砲撃は、不法射撃によるもので、ソ聯軍艦隊の砲撃艇三隻が沈没し、一隻は坐落せしめられた。

満ノ國境線を往く(三) 神田生

一 輻即發の武裝時下にある満ノ國境の真相、東京某紙特派員の筆による極めて最近の視察報告。

頻發する國境紛争ノ

今日の世界は國境紛争時代と現出しているといふ人がある。併し勿論これは誇張に失する。併し乍ら、慢性の紛争を繰返した南米のボリウエアとパラグアイの争ひは、ケランチヤコノ國境紛争とあり、イタリーにエチオピア征服の行動を開始せしめたものも、ワルワル事件とよばれた國境紛争であつた。このごろ、ひどく仲のよくあつてゐるイギリスと支那に於ても、尚ほ雲南・ビルマ國境紛争があつて、イギリスと支那は要々雲南省に侵入して恒久的な軍事施設を築き、以て英支兩國の國境劃定委員会の調査を牽制することを知り如くである。

だから國境線の紛争は、何も滿ノ、滿蒙のみの専断特許ではないのである。が、滿洲事変前までは、鴨綠江の平流「黄草坪島」を、支那と争ひかけたといはゆる「國境紛争」であつた日本及び日本人にとつては、滿洲國境三千七百餘キロ、滿蒙

國境七百餘キロ合計四千五百キロに及ぶ滿洲國境を、日滿議定書に基き共同防衛の責務から新に日本が擔任することに於ては、かうは、國境紛争の主因を究めることとなくたゞ相ついで勃發する國境の紛争事件に對して或もりの無神経に看過し、或もりの神祕過敏とあつて従はるに想ひのみ深刻にしてゐるに過ぎない。

國境紛争を敢て恐怖する必要はない。が、正確することは絶対に緊要である。

だから國境線の紛争は、何も滿ノ、滿蒙のみの専断特許ではないのである。が、滿洲事変前までは、鴨綠江の平流「黄草坪島」を、支那と争ひかけたといはゆる「國境紛争」であつた日本及び日本人にとつては、滿洲國境三千七百餘キロ、滿蒙

帝政露國は支那が近代の國境觀念を保持したかたに於て「抵抗」の勇氣を地味より進出するといふその伝統的極東政策を強行して平気で國境を蹂躪して来た。そのロシアの遺風は、國旗が「双頭の鷲」かう「赤旗」は變つても、變らぬ。

ソ聯政府ととも、伝統的遺風を繼承して旺に國境侵犯を敢て行ひ既成事実を作り出すことは狂奔して来たのである。

先づ第一の長から考察するに、滿洲國境はソ支兩國共に漠然と協定したわけであつて科学的に正確に劃定は行はれて居らぬ。しかも

ては、少くとも滿洲國內の治安維持は、自力で擔當し得るまでにあつてゐる。更に裝備と給与とを改善するならば、日本軍と共に國防の最前線にも立てるといふまでにあつたのである。

兵制は國家の縮図といふから、滿洲の整備はその終極の目的でもあらう。が、それだけ戦争誘發の危険性も多かつたといふのは、現に飛行機の爆撃が行はれる、戦車が出動せしめられるなどの「凡そ紛争」とか「保衛」とかぬまやましい言葉では表現出来ぬほどが、増進した事態もあつたほどであり、今後とも絶無とはいへないほど緊張した状態に於てゐるのである。

このことは、滿洲國境後にも依然として行はれてゐるのである。が、建國草々の滿洲國としては、内政問題に忙しく、到底邊疆地方にまで手延のほしてゐる余裕はあつた。ソ聯の國境侵犯があつても一々咎めてゐる暇がなかつたのである。

物言ふ河川の境界線

國境線とは法律關係の概念であつて、現実の國境線は「國境地帯」といふ言葉に示されてゐるが如く、或分の「幅」をもつてゐるものが普通である。ところが、滿洲、滿蒙國境四千五百キロは「幅」どころか「線」もなかりである。

たゞ、僅かに黒龍江を以て境とする北滿國境と烏蘇里江口から興凱湖にいたる東部國境だけが比較的ハッキリしてゐるが、この河川による境界について、ソ聯側は水心まで境とすることに同意せず、勝手な主張を繰返してゐる。國際法は河川を境界とする場合は、その河川が航行可能であるか否かは、航行可能であるか否かを以て、即ち水心を以て境界線とし、もし航行不可能の場合は兩岸の中央線をもつて境界線とするに規定してゐる。

このも國際法では河の真ん中に島がある場合、國境線はその島の中央を横切ることにしてゐる。が、ソ聯は滿洲國誕生以後に於ても、旺に進出してそれらの島々を殆ど我が物にしてつた。社中黒龍江と烏蘇里江との合流は(次頁へ)

懸賞讀物

僕に百万ベソ當つたら

3

香川三豊

選外佳作

「君も幸福に被害が無かつたのだから、警察沙汰はしない方がよからう。彼等を怒らすのはよくないから。」

私は彼の言葉に従った。そして立派に私の志を諦める事を知った。ロベルトはかゝる決死の行動に對するデリヤの感謝心は絶えず解決して下さる様に私は思つたからだ。

それから二月経つた。私がブエノスアイレスの寂しい通りを夜遅く、車を走らせてゐた時、不意に一人の男が疾風の如く街角を走つて来て、私の車に飛び込んで来た。「旦那、救つて下さい。恩に着ます。」

不図見ると、私の血が一時に凍つて了ふ様な気がした。突に此の男こそ、エルドバで私を襲つたギャングの頭であつたのだ。

私の頭は複雑にあつた。再び同じ街角から二人の警官が息をききながら駆けて来た。「今此處を盗賊が一人逃げ去つたかぬ。」

私は静かに車を走らせた。

私は此の男に永遠の悔恨を与へる様に、仇を思ひ返してやる事にした。十町程行つてから、私は彼を何にも云はずに降してやつた。彼は驚愕と呆然と感謝の入り混つた目で私に云つた。

「貴方はあの女を愛して居ますか?」
「もう万事は去つたのだ。古傷に觸つて貰ひ度くさい。」
「貴方は今何處に住んで居られますか?」

「又俺を恐喝する奴りかぬ。」
彼は恐縮しながら私の刺さる手に夜の静けさの中は消えた。

其の夜から三日後、私は一通の匿名の手紙を受取つた。
「我が尊敬するミト三氏、私は先夜に對する私の感謝を眞心で由し述べます。貴方が愛せられる可憐なデリヤ嬢は絶対に貴方と会見なさるおれは存じませぬ。明日午後十時〇〇駅前〇〇にてお待ち申上げます。」

そして明る夜私は此の若いギャングと彼の二人の手下は連れられて〇〇へ行つた。そして、其處で平げ蒼白なロベルトとデリヤが立

つてゐるのを見た。而も私達が彼等の前に行つた時ロベルトは非常に冷静さには此にてデリヤは非常な驚きに打たれたのを見たら、ギャングは云つた。

「俺はロベルト代り一百万の報酬にて一つの芝居をやつた。私は彼に頼まれて、此の芝居の森はミト三氏とデリヤ嬢を待ち伏せ、狂言はよつて二人を危地に陥れた。其の時ロベルト代り偽英雄の行動に依り私は筋書通り森の中に逃げ込んで、以てロベルト代りの野策は依るデリヤ嬢に任せられた。そして私は一百万に對する私の義務を完全に果たした。だが今日から三日間、私を不具戴天の仇と怨んでゐる者もミト三氏の手によつて私に却つて危地から救はれた。ミト三氏は仇を思ひ返さぬだ。私は悔恨に耐へず、此のミト三氏に報ゆる為今日デリヤ嬢の前で眞実を申し述べる次第です。私とロベルト代りの間の関係は完全に終りませぬが、私とミト三氏との場合、私は未だく沈山の恩債を感じるのであります。可憐なるデリヤ嬢は眞実なる御判断にお任せ致します。」

彼は落付いて話を終へるとロベルトは迷つて暗闇の中へ立ち去つてしまつた。彼等の後を見送つてゐる私の胸は、不意にデリヤ嬢が泣きながら倒れ込んで来た。私は其の温い意味と、心よい髪の色

とに酔ひながら、私の唇を彼女の唇に押しよると首を首した。その瞬間不意に目ざめて了つたのである。取かしの手には腕腕で我が胸をしっかりとつか、へて居たのである。(完)

満洲國境線を行く

ある三角洲は、愛媛條約及び北京條約によつて滿洲國遼寧縣の一部であることが明白である。はも拘らず、これを不法に據して今では要塞を構築し海軍作業場や水上飛行機の着水場を建設して清してゐる。

この三角洲は島といつても、我が國の半分ほどもある大きな島であるから、滿洲國側としてはソ聯側を撤退せよとして当然の権利を主張してゐる。が、ソ聯の種軍備の主要な一據点であるハバロフスクがすぐ後にあるところから、彼としては滿洲國側なることを承知の上で、何らかの理由を一つつけて来たに類してゐる。

將來國境劃定の眞面目に進められるにしてもこの中洲の帰属問題解決は恐らく容易ではあるまい。次に河川國境の問題に於けるのは洪水だ。平野や湿地を蛇りやうにうねつて流れてゐる滿洲の河川は水量の多寡によつて水路、流域を

変更する。これは大陸にはよくあることだ。例へば北アメリカとメキシコの國境を流れてゐる格蘭デ河が如きがそれで、一夜明くれは自分の村が河岸のメキシコ領に移動してゐたのが一雨にともなう。

恰もお盆の上に流した水がやうに、ヨリ低いところを求めて勝手な方向を変へるのである。最も紛争が多く、それだけ尖鋭に對立してゐる「東寧」の國境線がそれだ。こゝは烏龍河を挟んで滿洲の「東寧」とソ聯の「ホルタフカ」がいはゆる「國境の橋」を形成してゐるのである。が、その烏龍河の狭いところは兩岸から掘りかき出されるほどである。だから、一寸水位でもしようものならすぐ河床が変る。が、それが決つたやうに滿洲國領には入り込み、その程度それだけソ聯側は前進してくる。前進してゐる證據には、首でロシア側が烏龍河の自領岸に植えた柳の並木が成長して、行儀よく一線並ぶしてゐる。だが、今流れてゐる烏龍河はその並木のズンと手前には併し乍ら柳の並木はもろに云はないから、こちらが主張しどちらが主張して譲らぬ限り、解決は至難なワケだ。(以下次号)

見えぬ標識が境界
綱根一掃は軍備充実

見えぬ標識が境界
綱根一掃は軍備充実

「コンコルダンシア派の大会」
来る六日ルナバークで開催
オルティス・カステイロ氏の演説放送

共産党アロック、コンコルダンシア派を
構成する二大政党テモララダナシ
ヨナル及びラケナルアンチペルソ
ナリスタは週日それらに先立って
並同様にオルティス及びカステイ
ロ氏を次期正副大統領候補者とし
る旨を声明、政綱政策、選挙戦の
プロラム等決定したが、共産党
の立場にある各政党全部を打って
一九とするコンコルダンシア派と

今年の亞國独立宣言祭

陸海分列式は豪華版

七月九日は輝かしい亞國独立の宣
言祭であり、その盛大さには驚か
し、かつ、陸海軍の分列式は豪華
版である。就中最も人目を惹く
アベニダ・アルベアルで挙行政
分列式。今年は何でも陸海軍交
へて一万七千五百人からなる兵
隊が動員される。其の大半は分
列式の上空を五十五台の陸海軍
飛行機が大編隊で飛翔し、亞國
空軍の威容を誇らうと云ふわけ
だ。既に海軍に於ても三千五百名
の海軍大佐、少佐、中佐、少佐等
加することになっている。武蔵
を回さして全編隊廿五隻の大編隊

ホリビア國より
経済使節團來亞

ホリビア、アルゼンチン兩國通商實
務促進のためホリビア政府によつ

全國的農業調査旅行

國內農業の現勢を正確に把握せん
がため農務部は去月廿三日、全國
的農業調査旅行の宣言を布し、其
の発令と同時に全國約八万人の農
業調査委員は約百万の調査報告
表を農業部に配布、其れに伴ひ予
め休日と定めたる廿四日五期して
一斉に申告書の取集めを行つたが

レスタウランパンバ
巴里万国博て好評!

一石二鳥の亞國・肉の宣伝

國內肉類中の巴里万国博覧會で
アルゼンチンの料理が好評を博して
ることを云ふニュース
何でもセリエ河畔に停べられた船
その内部が亞國の肉類の匂い高い
田舎風には仕立てられて、そこで

全國的農業調査
の結果は大
体六ヶ月後
発表を見る予
定である

MEROFIX
DEL SR. ALEMAN (MARTIN)
M. SEITZ & Cia.
EXPOSICION Y VENTA TALLERES
DEFENSA 321 CHARCAS 4511
U.T. 23-AV-1529 U.T. 71-5558

現代日本の便り
新刊書雑誌沢山到着
徒然なる夜長を果しく
讀書がお過し下さい
日曜日には午前十時より店内
至用致して居ります

現代日本の便り
新刊書雑誌沢山到着
徒然なる夜長を果しく
讀書がお過し下さい
日曜日には午前十時より店内
至用致して居ります

藏田書店
市内カセロス街一九八三
U.T. 二二三(アルゼンチン)九八七二

花 大 田中佐歸る

日露役蔭の武勲者

五時出港の同船で錦星艦尾に向つた。田中佐は日露戦争時特林の戦いで、清洲美軍を撃退した。...

(東京通信) 病室の山野を馳駆する馬賊の群も「花大人来る」の一言に慄へ上り也たと云ふ實情を、緑林の大頭目花大人こそ花田佐の功績を、軍中佐は通訳一行を同伴、黒衣に、...

寫眞説明入り美麗な 昨年の日支美術品展カタログ 亞國美術博物館から発行

去年十月開催された亞國美術博物館開館以来未曾有の盛況を博した。...

紅白俱樂部主催 撞球大会

本日より十一日まで開催。紅白俱樂部主催の撞球大会は本日より十一日まで、スイッチャウ街四七〇番地カフエー「リッチモンド」内にて開催される。...

三日遅れ

リオ丸明朝入港 同船で乗客する人々

高船りオアシヤノヨロ丸は予定より三日遅れ、明日午前七時頃アエノス港に到着することになった。...

ACADEMIA DE BAILES
SARITA
CANGALLO 1279

ケヤズニ組のオルケスタ新設
タンゴ多教補充、面目一新!!
タツアダンスも教授致します

教授時間 毎日午前九時から午後十二時
半まで、四教養十二回分練習(1ペソ)
歩用(2ペソ、但し日本人の方に限り割引)
是非一度当教習所へ...

PROFESORA SARA MUÑOZ

合議会 花の組合は明日午前十時より田中料理店に合議会開き、園藝試驗場設置問題に關し最後の協議を進めよう。

武道大会 日本主催の柔剣道大会は明日午後三時から同会館で開催される。

ALMACEN NISHISAKA

醬油味噌 製造販売
天麩粉 製造販売
日本食品輸入販売
魚甲子一樽 十六ペソ
値段低廉、配達迅速
西坂實太商店
市内アウストリア街一〇一
U-1-2 (公衆電話 二九一五)

送別会 リオ丸で帰国する前船内小賢治、宮城永太郎両氏のため有志相会し来る五日(月)夕、市内ダカラ街五八、松屋旅館で送別会が開催される。出席希望者は四日正午迄に仲商嘉代(電話六二二二)一、カセロス街三〇一へ申込みました。

開業 ホサダ市山口喜代志氏は今回同市内に設備整へる高等染色店を開設し、藤本勇氏はこの福エスコバル町附近に「雀川花園」と命名花弁園の独立経営に着手した。

入院 勝田長三郎夫人は去月廿九日、アエドンの街のサトリオチクサテイスに入院、手術を受けられたが経過良好の由。

移転 大城仁盛氏の経営洗濯店「東京」はチマカア二番一三二一四番地に移転し、藤山次氏も転居 Aguilera 1753 番。

寄贈 中川商店は明日の武道大会賞品として三ツクニ流奇賭(出生)金子七五郎氏宅へは去る廿九日男児出生、好父と命名母子共に健康。

琉球三味線教授

土曜日午後(初級) 初等科
日曜日 中等科
市内モリス街一六四六
U-1-3 一八四二四
安里亀栄

市民スポーツの殿堂

東京大会までに 大スタジアム建設 ―世界に誇るアマ専用

大東京が吾界にほこる市民の大スタジアムが定紀二十六
百廿三期に竣工する。吾界の大都市が各々結構大なる市
設運動場を擁し、市民の体育健康に貢献してゐるの故に、
極めて貧弱なスポーツ施設しかたなきたなかつた東京市では
遅滞なきがら市民用総合グラウンドを建設、早々低下し行
く大都市下の体格を向上させるべく市監査局都市計画
課ではプランを練つてゐるが、新市長就任第一回の事業
案として市会に上程されることにならう。

現
在大東京におけるスポーツ施設は、今では一般ア
マチュアが、足さぬ余地なき、最初の大スタジアムが敷地十
神宮外苑のスタジアムを除いては、万坪に一十坪の予算で建設され
一般市民の市の設けらうと
しては、隅田公園、錦糸公園芝公園
同島公園等の施設しかなく大都市
のスポーツ機関として吾界に誇り
得るものは一つもないので市民の
ため大スタジアム建設が叫ばれ
る。一方都市施設の理想案として
市内各所に散在する小公園にそれ
ミレ適当な運動場を設けるべき
であるが、敷地の経費の関係及び
利用価値から大綜合グラウンド
が勝るといふので、今度の案が生れ
たわけで、陸上競技場、野球場、
プールを中心とする各種運動場を

細羅した二十回国際オリンピック
ツシ施設は、今では一般ア
マチュアが、足さぬ余地なき、
最初の大スタジアムが敷地十
坪に一十坪の予算で建設され
る。

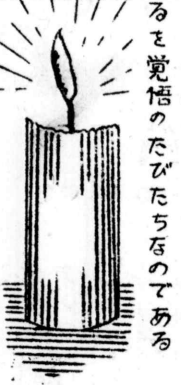
皇
紀二十六百廿の夏には大
東京にスポーツマン専用
のスタジアムと純アマチュア用を
吾界に誇る大スタジアムが二つ出
現するわけである。

このスポーツグラウンドは、
市民健康増進のための利用に重
点を置き一部スポーツマンの独占
を避け、敷地の如き市民利用の
立場から省線沿線を選ば、大休中央
線沿線が主要候補地に挙げられ、
線沿線が主要候補地に挙げられ、
る。かうした条件がオリンピック
ツクスタジアムとは全然別箇の
意味で建設されるのである。

家として、また日本の代表的古典
文学である古今集、万葉集、
書、その他の佛訳紹介で知られて
ゐる神田、日佛会館、のジョルジ
・ホー博士がこんどは日本人で
マへ末に誰の手がけたことのない
明治から現代に至る日本文学史
を著すことになり、国
際文化振興会では遅滞なきがら同
博士に向小二年間研究補助として
毎二百円づつを贈ることとなつた
。

話のわかれ話

山田耕作、ドイツへ
いった。友人たちは
「おい、僕はたうと
う、フランクと一緒に
に寝る、はげしいこと
にやつたんだぜ」と
縁起でもないことを
いふながら……
山田耕作は、フ
ランクと情死するた
めに渡したたのであ
るか？耕作はまたかういつた。
『フランク博士は僕といれる寝
るか？耕作はまたかういつた。
『フランク博士は僕といれる寝
るか？耕作はまたかういつた。』



一流文学者尻目に 邦文の「日本文学史」

碧眼博士のヒット！
在留外人中第一の日本文学研究
家を著して、また日本の代表的古典
文学である古今集、万葉集、
書、その他の佛訳紹介で知られて
ゐる神田、日佛会館、のジョルジ
・ホー博士がこんどは日本人で
マへ末に誰の手がけたことのない
明治から現代に至る日本文学史
を著すことになり、国
際文化振興会では遅滞なきがら同
博士に向小二年間研究補助として
毎二百円づつを贈ることとなつた
。

この文学史は明治初年の小
説家、愛宕堂村
とほじめ芭蕉、子規の俳句から短
歌、脚本、戯曲、民謡、現
代の大衆文学作家に至るま
ま文学の凡ゆる部門に
わたって代表的作家四
十数名の経歴から作
品年次、代表的作品
等を収録したもので固有名詞等は
つたが、この一言に、フランクす
っかり耕作には水さく、島根ら
は島根友情が結ばれたのであった。
『フランクよりか書信には
「当地には快楽なる風景なく、
も、さんめん」
とあり、またこそ、耕作寝館に入
ると覚悟のたがふたなのである
膏の結晶である』

Buenos Aires, sábado 3 de Julio de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981, U. T. 23-7051

Instituto Cultural Argentino - Japonés

Disertación de G. Yoshio Shinya

(Segunda parte)

Las actividades culturales están en auge, felizmente, en el mundo de hoy. Diríase que la terrible guerra mundial de la segunda década del siglo XX con su crimen al por mayor que estremeció a la humanidad, no ha sido del todo estéril para el lento mejoramiento de la vida de los hombres. La generalización del deseo de estrechar las relaciones culturales entre los distintos pueblos, el anhelo de conocer y hacer conocer las culturas diversas y la comprensión de tales necesidades como bases para la amistad real entre todos los seres que habitan la tierra, son consecuencias de la reacción emanante del choque brusco sufrido ante la violencia barbara que repugnó a la conciencia bondadosa del hombre. Es un bruto, este fenómeno, que debemos acariciar con cariño, otorgándole el valor que le corresponde para perpetuar su espíritu generoso y noble contribuyendo en su obra que es, ni más ni menos, la construcción de la paz del mundo.

Si al admitir que Grocius fué el padre del derecho internacional, decimos que la guerra de los 30 años del siglo XVII engendró los principios del derecho de gentes, podríamos declarar también que la guerra europea del siglo XX, estableció como regla o conducta ineludible de las naciones civilizadas el deber de cooperar en la tarea de difundir los conocimientos culturales.

Todos los países civilizados han tenido y tienen innumerables organizaciones de carácter cultural, ya que la cultura abarca una vasta esfera de acción humana, a pesar de ser posible de definirla en pocas palabras como lo hace García Morante: el conjunto del modo de vida de una nación. El Japón tampoco ha sido ajeno a esta preocupación, mas el pueblo japonés, atareado en el estudio y asimilación de la cultura occidental introducida en la segunda mitad del siglo pasado, no ha prestado la atención que debiera a la suya propia.

En los últimos años, sin embargo, ha comenzado a notarse cierto despertar del sentimiento de valorización de la cultura nacional, y como consecuencia de ello, el deseo de que los demás participen de ella dándosele a conocer y contribuir de esa manera en cooperación con los demás países, al acervo internacional y al bienestar de la humanidad. Con mayor motivo, cuanto que dada la crisis actual de la civilización, los pueblos occidentales vuelven sus ojos al Oriente en busca de nuevas directrices y módulos más seguros, y se observan por todas partes manifestaciones claras de la corriente cada vez mayor hacia el estudio más profundo del Oriente en general y en especial del Japón.

Además, la posición del Japón en el mundo actual, sus relaciones con las potencias, y la situación peculiar del Imperio en el Extremo Oriente, que multiplican sus vinculaciones con el resto del mundo, han servido para demostrar que existe una ignorancia cabal acerca de las cosas y hechos del Japón, que urge ser remediada.

Por eso, aprovechando esta ocasión para dar mayor impulso a esa tendencia y exponer a los

ojos del mundo el verdadero significado y valor de la cultura oriental, y en particular de la japonesa, surgió la idea de organizar una institución que se encargase de esas tareas: así nació la Kokusai Bunka Shinkokai—Sociedad de Fomento de Cultura Internacional.

Es una entidad semi-oficial, sólidamente establecida y firmemente sostenida con la colaboración incondicional del gobierno y pueblo del Japón.

Detalló con minuciosidad, hábilmente ilustrada, sobre el carácter, organización y planes de actividad de la K. B. S., dedicando un capítulo especial con relación a la Argentina, que fué escuchado con interés.

Al terminar, el orador fué largamente aplaudido y muy felicitado.

VENDRA A BUENOS AIRES EL TENOR JAPONES FUJIWARA?

Noticias de Tokio hacen saber que el tenor Yoshie Fujiwara, que acaba de regresar de su torneo por el continente europeo, habría concertado un contrato para dar un gira por el continente sudamericano.

Según esa versión vendría a ésta en Septiembre próximo.

VIENEN 3 INGENIEROS FERROVIARIOS DEL JAPON

A bordo del motonave "Río Janeiro Maru", que arribará aquí hoy, vienen tres ingenieros ferroviarios del Japón con el objeto de estudiar las condiciones ferrocarrileras de los argentinos.

Influencias occidentales en la historia y en la cultura del Japón.**POR EL Dr. IZURU SHINMURA, PROFESOR DE LA UNIVERSIDAD DE TOKIO**

(Continuación).

Más conveniente resulta para nosotros comenzar con el tiempo en que el país estuvo libremente abierto al intercambio con el exterior y que abarcó alrededor de una centuria: precisamente de 1540 a 1640. Entre los primeros productos occidentales introducidos al Japón, hay que mencionar las armas de fuego, llevadas en un barco portugués, hacia el año 1543. Naturalmente, en aquella época, esencialmente guerrera, tales instrumentos de combate, recientemente inventados, se extendieron muy pronto por todo el país. Más aún, poco tiempo después comenzaron a fabricarse armas de fuego en el distrito de Kinki.

Por otra parte, cuatro años después encontramos en Malaca, a un joven japonés convertido en discípulo de uno de los fundadores de la Compañía de Jesús: Francisco Javier. Habiendo entrado a la escuela en Goa, India, al año siguiente y después de haber hecho sus estudios de lenguas y artes,

ese joven acabó por llevar a Francisco Javier al Japón, abriendo así el camino a la propagación del catolicismo. Tal cosa ocurrió en el año 1549. No hace falta detallar pormenorizadamente cómo esos dos importantes elementos de la cultura occidental: las armas de fuego por una parte y la religión por otra, introducidos uno tras otro en el brevísimo transcurso de unos cuantos años, se esparcieron con rapidez de rumbo desde Kyushu y Kinki y de allí al este y al norte.

Durante ese siglo de libre intercambio con los países extranjeros, se encuentran algunos ejemplos de jóvenes guerreros japoneses, que después de penetrarse de la cultura de Occidente, regresaron procedentes del sur de Europa, es decir, de Portugal, España e Italia y de la llamada región de **Wamban** (literalmente: de los bárbaros del sur): de Macao, Manila, Malaca, Goa, etc. De todas maneras la cultura de Europa fué introducida principalmente por los barcos portugueses, secundados estrechamente por los de España. Algunos de esos barcos procedían del país mismo de su origen y otros de las colonias respectivas.

No debemos desatender los efectos de las numerosas importaciones de múltiples ideas nuevas y de mercancías durante aquel siglo, resultado del tráfico con el Oeste y con los mares del Sur. Hay que confesar, a la vez, que numerosos hechos concernientes a diversos aspectos de la historia de aquellos tiempos, se encuentran todavía hundidos en el misterio.

Aunque la flamante adquisición de las armas de fuego revolucionó, sin duda, el arte de la guerra, no podemos citar ninguna prueba indudable de que la técnica de la construcción de fortalezas haya cambiado fundamentalmente bajo la influencia de los métodos occidentales. Tratándose del arte de construir navíos, — especialmente los de gran tamaño —, pueden verse los documentos que la técnica japonesa derivó en gran parte de la de Occidente. Parece también que la estructura de los templos y la forma de los monumentos sepulcrales recibieron, hasta cierto punto, la influencia del Oeste, como puede apreciarse en pinturas fidedignas y en algunas ruinas todavía existentes, lo mismo que en ciertos documentos; si bien, fuera de los puertos de comercio, la influencia occidental a ese respecto no fué considerable. El número de casas y establecimientos comerciales hechos al estilo extranjero fué casi nulo. Se importaron caballos, **koshi** o literas, y tiendas; pero fueron tan raras que apenas se veían como muestras. Parece haberse señalado algún cambio en el modo de vestir de un reducido grupo entre la clase más elevada. En cambio, por cuanto a sombreros, abrigos, camisas, pantalones, medias y guantes, la adopción del estilo europeo se extendió considerablemente. Algo de eso queda hasta la fecha, no sin haber sufrido cambios de forma desde un principio.

Especialmente en cuanto a la ropa, comenzaron a aparecer nuevos materiales y se crearon nuevos modelos para atender a la demanda de cierta clase de personas. Con motivo del período de aislamiento, las nuevas telas empezaron a producirse dentro del país mismo.

(Continuará en el próximo número).

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

!Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores catúes que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigillado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanta?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

COMERCIO ARGENTINO - JAPONES
Cifras japonesas

Según informaciones oficiales dadas a la prensa por la legación japonesa en ésta, las exportaciones japonesas con destino a la Argentina en los primeros cinco meses del año en curso registró un total de 12.361.790 yens, mientras que las importaciones en el Japón de productos argentinos durante el mismo período alcanzó a 23.012.749 yens.

El saldo es desfavorable para el Japón en 10.650.959 yens.

LO QUE EXPORTO LA ARGENTINA AL JAPON EN 1936

	Toneladas.
Carne vacuna congelada	760
Carne conservada	319
Lana lavada	34
Lana tipo frigorífico	2
Lana sucia	6.774
Cueros vacunos salados	1.493
Cueros vacunos secos	18
Lino	2.183
Maíz	165.287
Harina de trigo	1
Extracto de quebracho	9.333
Etc. etc.	

Nota: Son datos del Boletín del Comercio Exterior, de la Dirección General de Estadística de la Nación.

UN DIPLOMATICO ARGENTINO OBSEQUIADO

Informaciones de Tokio hacen saber que el secretario de la legación argentina, señor Arturo Al-

varez Montenegro, que deberá partir en uso de licencia en el próximo mes de septiembre, ha comenzado a recibir miles de obsequios de despedida por parte de la población.

El señor Montenegro se ha hecho muy popular con motivo de su generosidad, siendo el "ministro filántropo".

SE CONSOLIDA EL GABINETE JAPONES

El siguiente despacho telegráfico fechado en Tokio, publicado en todos los diarios importantes del mundo, revela que el Gabinete del príncipe Konoye se consolida, imprimiendo un mayor prestigio al régimen parlamentario del Japón:

"Tokio, junio 24. — El primer ministro, príncipe Fuminaro Konoye, designó a 24 parlamentarios viceministros consejeros, en un esfuerzo para resolver la prolongada discusión entre las ramas legislativa y ejecutiva del Gobierno. Los funcionarios de la Dieta que han sido elegidos servirán de vínculo entre el Gabinete y el Parlamento. Un viceministro y un consejero para cada Ministerio corresponderán al Minseito y al Seiyukai, los dos partidos más importantes de la Dieta, y cuatro de estos cargos quedarán para los partidos menores. Estas funciones habían sido abolidas u olvidadas en otros gobiernos. Los jefes militares que apoyaban al general Hayashi, jefe del gobierno anterior, querían concluir con estos cargos porque daban demasiada ingerencia a la política y al Parlamento en el Gobierno.

RADIODIFUSORA DEL JAPON

La Corporación Radiodifusora del Japón efec-

túa desde hace algunos meses transmisiones transoceánicas diarias en onda corta con programas cuidadosamente seleccionados. Estos programas ofrecen aspectos interesantes de la cultura japonesa, noticias del día, música del país, cuentos folklóricos, dramas y comedias, informaciones deportivas, conferencias, etc. etc.; todo ello en forma de que el radioescucha extranjero pueda darse una idea no sólo del Japón moderno, sino también del de antaño.

Sr. MIURA, SECRETARIO DE LA EMBAJADA DEL JAPON EN RIO DE JANEIRO

El señor Eumio Miura, Secretario de la Embajada del Japón en Río de Janeiro, de paso para el Japón, estuvo de visita en esta capital, donde permaneció una semana, antes de partir a Chile. El diplomático, que ha sido trasladado a Tokio para ocupar un puesto en la cancillería, se fue admirado de los progresos de la Argentina.

NUEVOS EMPLEOS A LA SEDA

No ha mucho, las autoridades del ejército japonés hicieron un ensayo para proveer a los soldados con la ropa interior de seda, resolución que obedeció para dar salida a la enorme cantidad de seda que permanecen en poder de los productores, por falta de demanda.

Ultimamente se ha inventado en el Japón el modo de utilizar la seda para "suela de zapato", que parece tener aceptación.

Por otra parte, la marina nipona ha dispuesto que todas las enseñas sean fabricadas con seda en vez de serlo con lana.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>A. HANAFUSA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 882 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>K. ANNO The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 J. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p>R. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193.</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38. Mayo 2213</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1482.</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 783 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Esqr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 824 - U. T. 31 7846</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1089 - U. T. 37 (Riv.) 1061</p>	<p>TABO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3199</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1897 - U. T. 33-7769</p>	<p>COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>